



2018年12月期 第3四半期決算説明資料

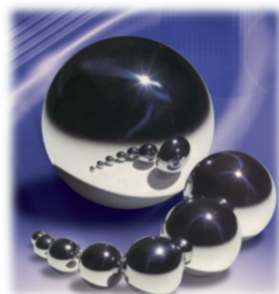
2018年11月14日
株式会社ツバキ・ナカシマ
(東証一部 6464)



はじめに

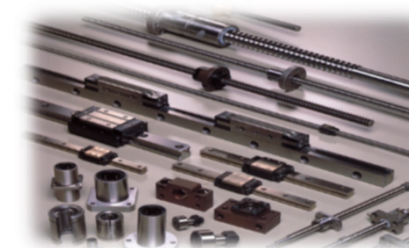
目次

1. 2018年12月期 第3四半期実績 P2
2. 2018年12月期 業績見通しの修正について P12



「一球一心」

一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。



「一精一誠」

誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



1. 2018年12月期 第3四半期実績



2018年12月期 第3四半期決算ハイライト

旧PBC事業との統合が進捗し、売上収益、営業利益共に過去最高を更新

売上面

- 売上収益は572億円と過去最高を更新(前年同期比63.5%増)

収益面

- 営業利益も78億円と過去最高を更新(前年同期比89.4%増)

キャッシュ面

- フリーキャッシュフロー29億円を創出

配当予想

- 期末配当は当初予定通り40円/株(前年同期比21.2%増)を予定
- 中間配当39円/株を9月3日に支払い済み(前年同期比25.8%増)



2018年12月期 第3四半期連結業績

旧PBC事業との統合が進捗し、売上収益、営業利益共に過去最高を更新

	2017年 3Q累計	2018年 3Q累計					
	実績 (※2)	実績 (※2)	一時費用	一時費用 調整後 実績	為替換算 影響	増減額 (※3)	増減比 (※3)
売上収益	34,991	57,202	—	—	1,157	21,054	60.2%
営業利益	4,128	7,817	▲307	8,124	137	3,859	93.5%
EBITDA	5,556	10,323	▲307	10,630	191	4,883	87.9%
税引前当期利益	3,514	6,938	▲307	7,245	135	3,596	102.3%
当期利益(※1)	2,251	5,441	▲221	5,662	99	3,312	147.1%

(※1) “当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

(※2) 旧PBC事業部の業績として、2018年3Q累計に売上収益 24,687百万円、営業利益 2,065百万円、EBITDA 3,371百万円、税引前当期利益 2,044百万円、当期利益 1,582百万円、2017年3Q累計に売上収益 4,088百万円、営業利益 168百万円、EBITDA 397百万円、税引前当期利益 166百万円、当期利益 113百万円が含まれております。また、2017年3Q累計の営業利益には、PBC事業部取得に伴う1,641百万円の買収関連費用が含まれております。

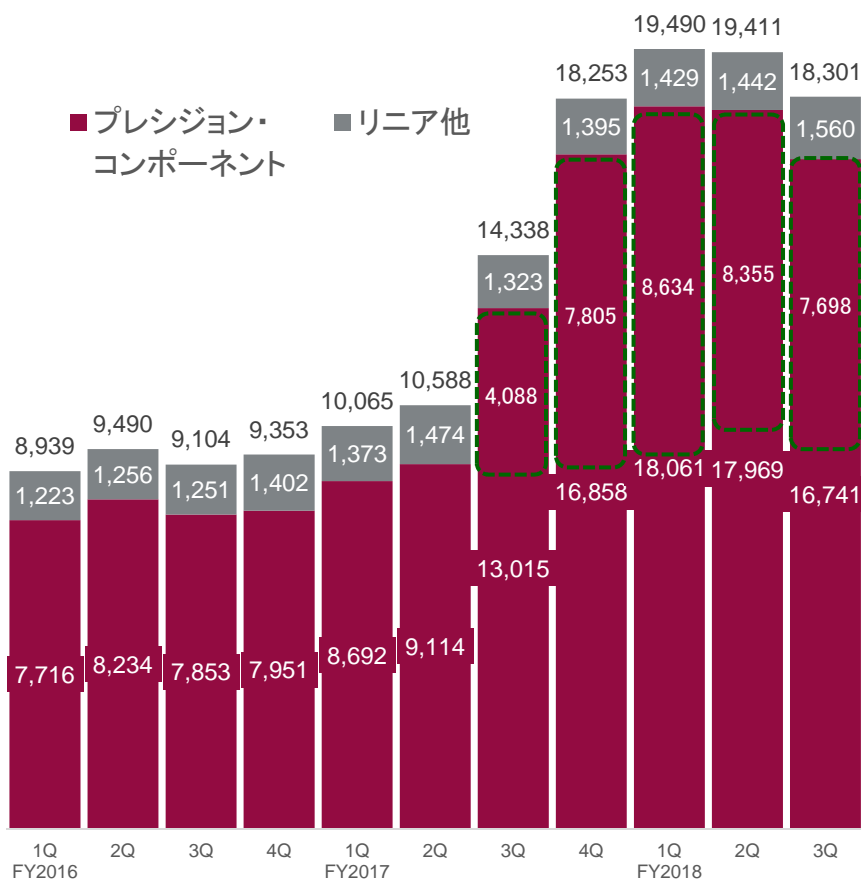
(※3) “増減額”及び“増減比”は一時費用及び為替換算影響を除いております。



四半期グループ連結業績推移

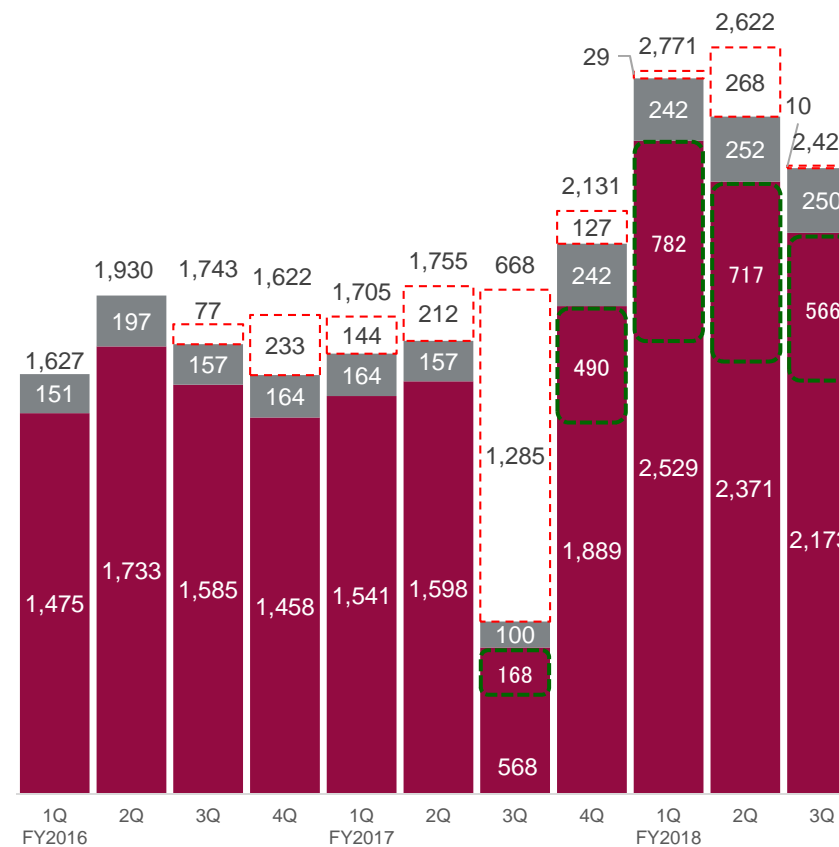
四半期売上収益は4四半期連続で180億円以上を達成し高水準を維持。

売上収益推移（百万円）



営業利益推移（百万円）

(※)旧PBC事業部買収に伴うPurchase Price Allocation(PPA)により、旧PBC事業部の営業利益を2017年3Q:288百万円,4Q:438百万円及び2018年1Q:143百万円を遡及して減額修正しております。



緑点枠線は、旧PBC事業部業績を表示

赤点枠線は、一時調整費用を表示

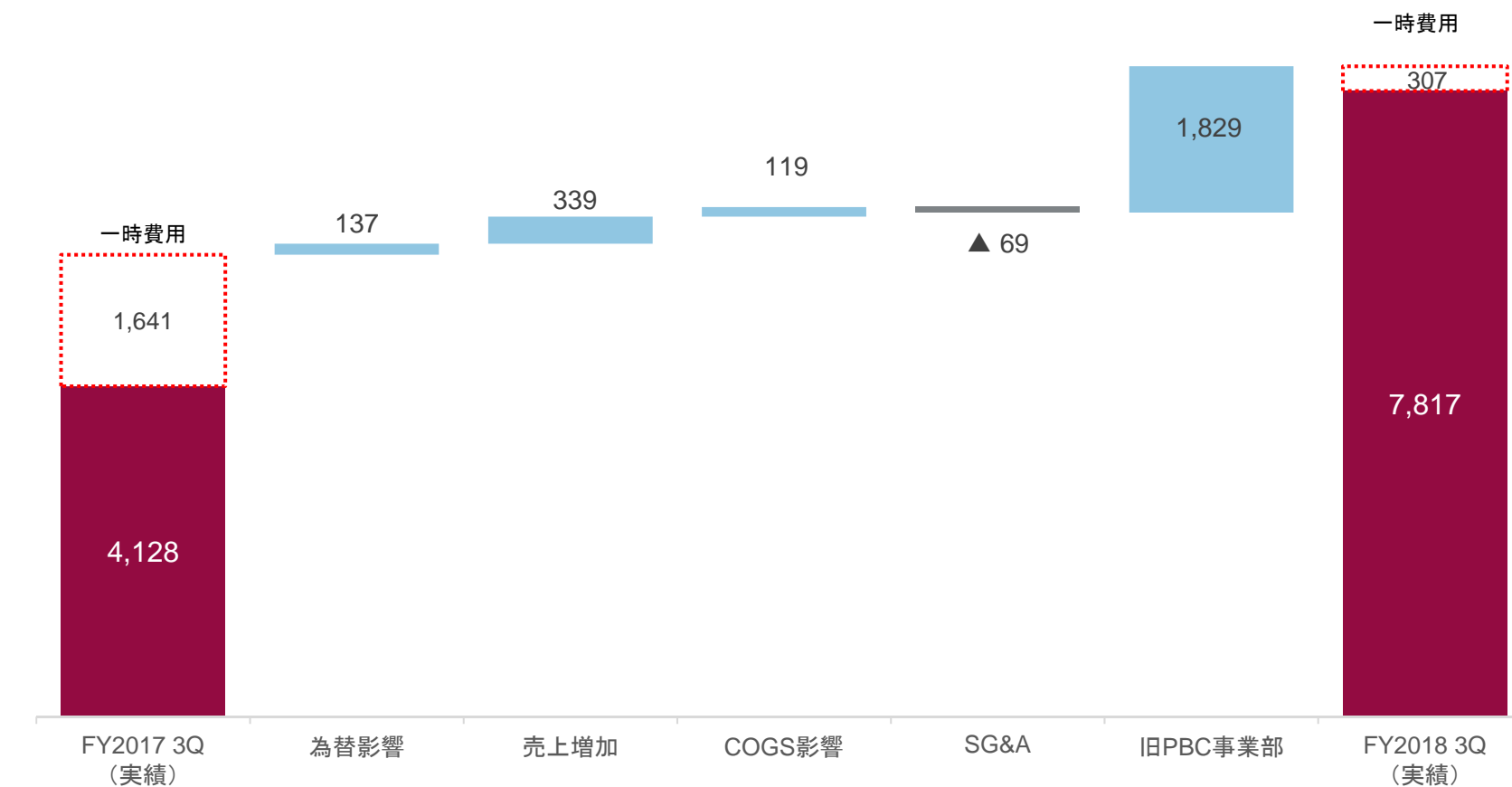


2018年12月期 第3四半期営業利益増減要因分析

売上増及び旧PBC事業の買収により営業利益共過去最高を更新

営業利益(対前年同期比)

(百万円)



(※)一時費用として、2017年3Qは主に“旧PBC事業部買収関連費用”、2018年3Qは“外部調査員会関連費用等”を計上しております。

2018年12月期 第3四半期セグメント別売上収益 前年同期との比較



旧PBC事業部の買収効果により、プレジジョン・コンポーネントセグメントは前年同期を大幅に上回り、過去最高の売上収益を達成

	2017年 3Q累計	2018年 3Q累計			
		(百万円)			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
グループ連結	34,991	57,202	1,157	21,054	60.2%
プレジジョン・コンポーネントセグメント	30,821	52,771	1,157	20,793	67.5%
リニア他セグメント	4,170	4,431	0	261	6.2%

- ・プレジジョン・コンポーネントセグメントは産業用精密ボール、精密ローラー、精密スタンピング部品等のセグメントです。
- ・旧PBC事業部の売上収益としてプレジジョン・コンポーネントセグメントの2017年3Q累計に4,088百万円、2018年3Q累計に24,687百万円が含まれております。
- (※1) “増減額”及び“増減比”は為替換算影響を除いております。

2018年12月期 第3四半期地域別売上収益 (プレジジョン・コンポーネントセグメントのみ)前年同期との比較



プレジジョン・コンポーネントセグメントにおける地域別売上収益においては既存ビジネスの成長に加え、旧PBC事業部の買収効果により欧州、北米で大幅に成長

	2017年 3Q累計	2018年 3Q累計 (百万円)			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
日本	9,734	10,021	—	287	2.9%
北米	5,587	11,414	▲247	6,074	108.7%
欧州	7,714	21,005	1,114	12,177	157.9%
アジア	7,786	10,331	290	2,255	29.0%

・2018年3Q実績には、PBC事業部の売上収益が北米 6,472百万円、欧州 15,393百万円及びアジア 2,822百万円が含まれております。

・2017年3Q実績には、PBC事業部の売上収益が北米 1,023百万円、欧州 2,503百万円及びアジア 562百万円が含まれております。

(※1) “増減額”及び“増減比”は為替換算影響を除いております。

(ご参考) 2018年12月期 第3四半期地域別売上収益 前年同期との比較



	2017年 3Q累計	2018年 3Q累計 (百万円)			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
日本	13,536	13,931	—	395	2.9%
北米	5,587	11,414	▲247	6,074	108.7%
欧州	7,714	21,005	1,114	12,177	157.9%
アジア	8,154	10,852	290	2,408	29.5%

・2018年3Q実績には、PBC事業部の売上収益として北米に 6,472百万円、欧州に 15,393百万円及びアジアに 2,822百万円が含まれております。
 ・2017年3Q実績には、PBC事業部の売上収益として北米に 1,023百万円、欧州に 2,503百万円及びアジアに 562百万円が含まれております。
 (※1) “増減額”及び“増減比”は為替換算影響を除いております。

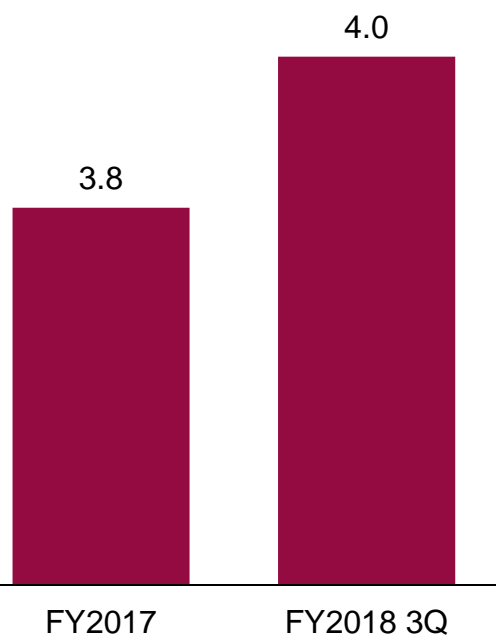


BS/CFにおける業績

バランスシートの適正コントロールに継続して取り組む

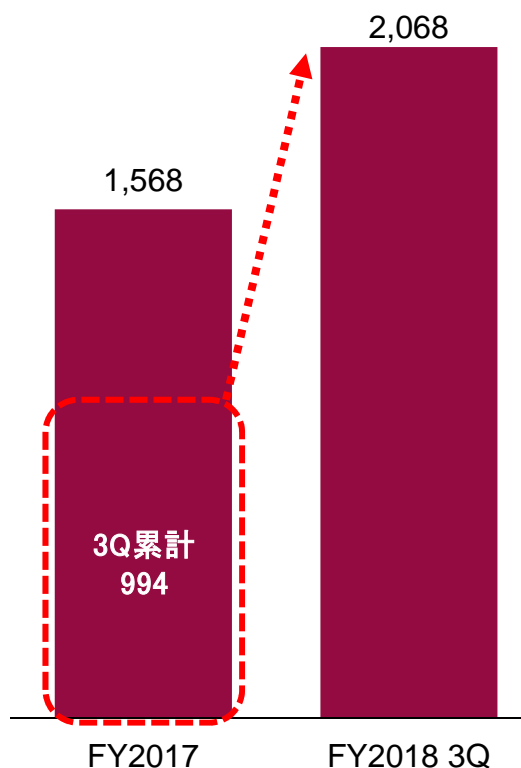
棚卸資産回転月数(月) (※1)

■ 在庫回転率は期末に向けて前年末水準へ



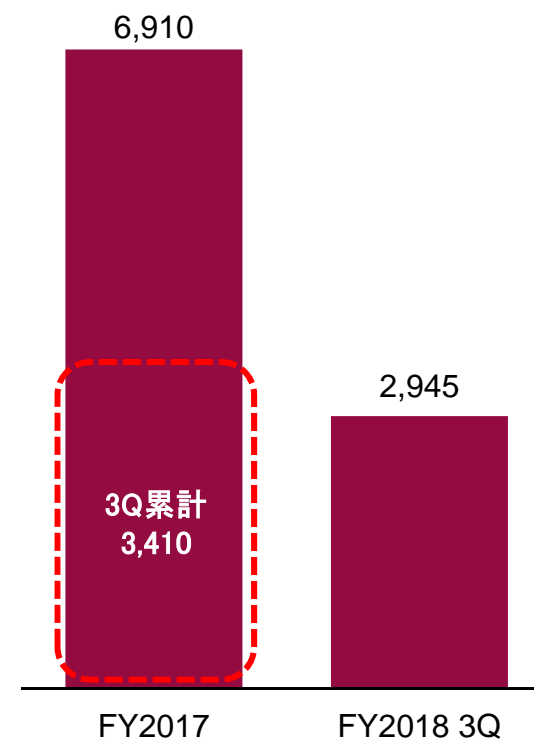
設備投資額(百万円) (※2)

■ 生産能力強化により設備投資増加



調整後FCF(百万円) (※3)

■ 営業CFは改善傾向、設備投資促進中



(※1) 2017年度のPBC事業部の売上収益は4.5ヶ月分として加重平均により算出

(※2) PBC事業部の設備投資として、2017年 263百万円(4.5ヶ月分)、2018年741百万円を含みます。

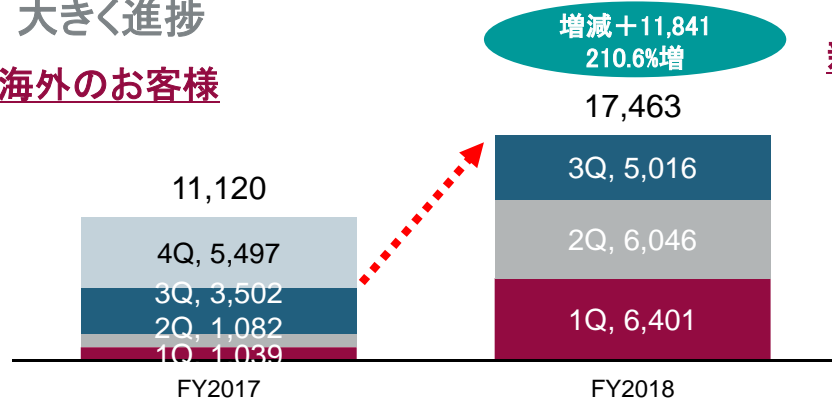
(※3) 2017年の調整後FCFには、PBC事業部取得に伴う 44,053百万円及び一時支出等 1,560百万円を除いて表示しております。



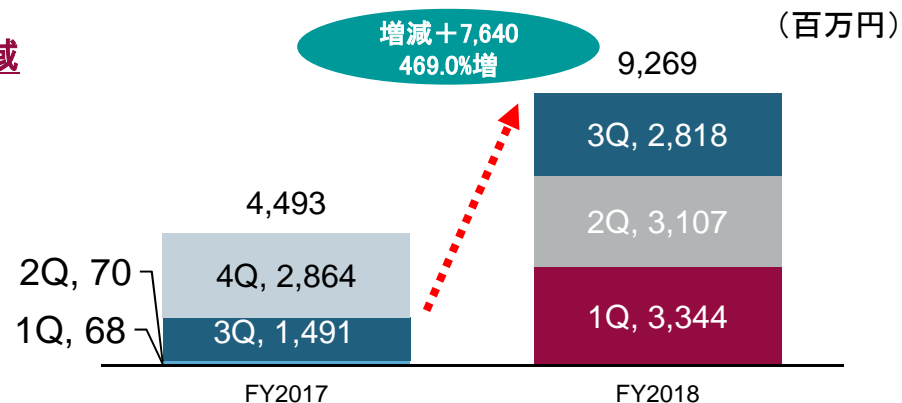
2018年12月期第3四半期 4(既存)+2(新規)の販売戦略進捗

販売戦略イニシアティブの進捗は、既存ビジネスでの成長に加え旧PBC事業部の買収効果により、大きく進捗

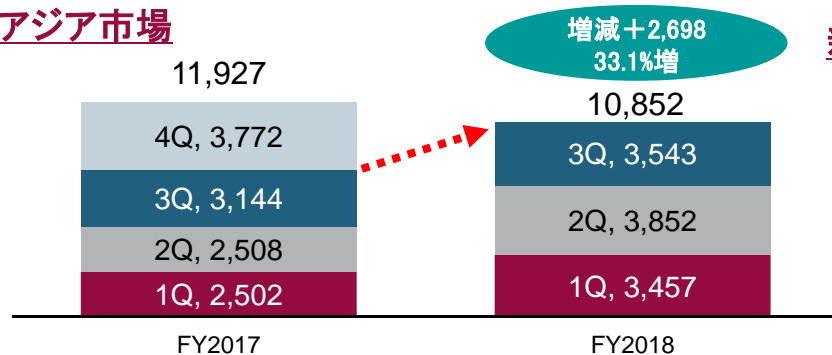
海外のお客様



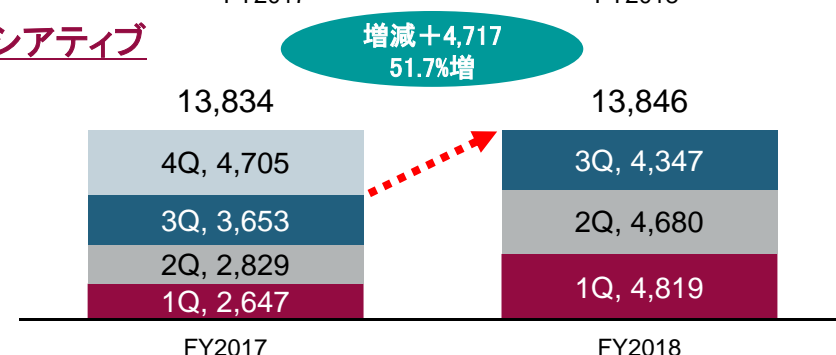
新領域



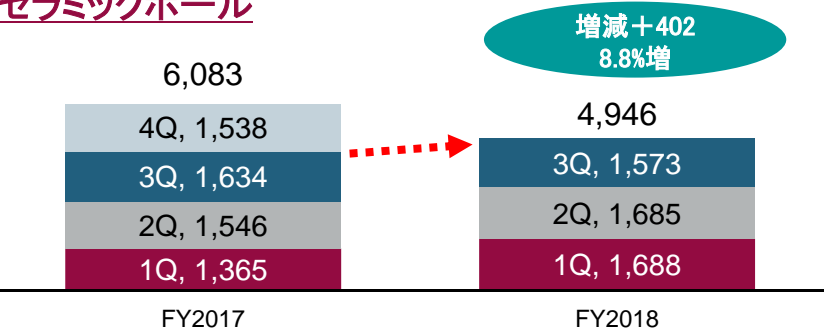
アジア市場



新イニシアティブ



セラミックボール



※上記グラフには下記のPBC事業部売上収益を含みます。

PBC事業部	2017 3Q (1.5か月)	2017 4Q	2018 1Q	2018 2Q	2018 3Q
海外のお客様	2,376	4,456	5,175	5,025	4,057
アジア市場	562	1,028	843	1,051	928
新領域 (ローラー)	1,468	2,803	3,192	2,905	2,650
新イニシアティブ	766	1,680	1,843	1,644	1,504



2. 2018年12月期 業績見通しの修正について



2018年12月期業績見通しの修正について

売上収益は前回公表値通りとなる見込みです。利益面について、以下の理由により下方修正致します

1. 原材料価格の高騰及びそれに伴う販売価格への転嫁にタイムラグ
2. 米国による鉄材輸入関税増加による原材料価格の上昇、及びそれに伴う販売価格の見直しにタイムラグ
3. 日本で発生した台風の影響による一時的な稼働率の低下
4. 過去の不適切な行為への対応による一時的な費用の発生



2018年12月期業績見通しの修正

(百万円)

	当初 見通し	修正後	増減額	増減比
売上収益	75,000	75,000	—	—
営業利益	11,500	10,350	▲1,150	▲10.0%
税引前当期利益	10,600	9,300	▲1,300	▲12.3%
当期利益(※1)	7,790	7,100	▲690	▲8.9%
基本的1株当たり当期利益(円)	195.88	178.52	▲17.36	▲8.9%

(※1) “当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

想定為替レートに変更はありません。1ドル112円、1ユーロ132円、1人民元16.6円



免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載(推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます)が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。